

住民参加型合意形成システムによる市民ニーズへの効果的な対応方法の検討

大日本コンサルタント(株)インフラ技術研究所 正会員 ○吉田敬宏
 大日本コンサルタント(株)インフラ技術研究所 正会員 龍田 斉
 大日本コンサルタント(株)インフラ技術研究所 非会員 川崎 聖

1. はじめに

近年、オープンガバメントや市民協働の重要性が高まる中、スマートフォンやWebサービスに代表される情報通信技術を通じて行政と住民が街や地域の様々な課題を共有し、これら課題を合理的・効率的に解決する市民協働の仕組みが構築されている。市民が社会インフラ関連の地域の困りごとに対して積極的に報告やフィードバックするような市民参加の試みが行われ、国内では「MyCityReport（ちばレポの次世代版）」、「FixMystreet Japan」等が、市民通報・協働システムの代表例として挙げられる。これらは、社会インフラ課題に対する自治体内部での効率的な処理対応や対応時間の短縮等の成果が報告されている¹⁾。従来の行政の課題解決対応の仕組みは、課題についてどのような対応を行うかといったプロセスを行政側で決定していたため、必ずしも住民の声が反映されない場合があった。これらから、今後益々多様化していくことが想定される市民ニーズに対応可能とするため行政内の特定の事業に関する住民のアイデアを住民の関心度に応じて支援でき、アイデアの実現に住民の声を容易に反映させることを可能とするシステムのビジネスモデルを考案²⁾した。本稿ではシステムの検討内容について報告する。

2. システムの概要

本システムは、クラウドサービスとして住民がそれぞれ携帯するユーザ端末としての住民端末と住民端末が通信回線を介して接続されるサーバに接続された自治体担当者が使用する自治体端末から構成され(図-1)、自治体が設定した管理情報(データベース)に、個人のアイデアを併せて公表し、予め自治体から付与されたポイントをもとに住民にポイントによる投票を募ることで住民発意のアイデアに関する住民意見集約を行う。

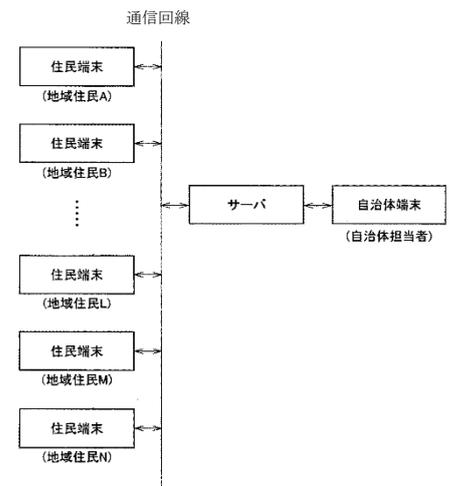


図-1 システム構成

表-1 システム機能

3. システムの機能

本システムの機能を表-1に示す。住民端末は、管理システムへの設定登録に伴って、管理情報に応じた地域内の事業に関する課題やアイデアの投稿、閲覧、アイデアに対するポイントによる投票等を可能とする。自治体端末は、管理情報の設定のほか、設定登録された住民端末の管理、投稿されたアイデアの審査、投稿された課題および審査を通過したアイデアの公開、公開されたアイデアに対する地域住民の支援の度合い・関心度に応じた判断が可能である。管理情報は、当該自治体が管理する地域内の事業に関して、自治体担当者が自治体端末を用いて登録した情報で、地図上にマークされることにより、予め設定登録された住民端末に提供される。住民は、地図上のマークをタップすることにより対応する管理情報が閲覧可能である。

アプリケーション (使用端末)	ユーザ区分 (ユーザ)	機能概要	
スマートフォンアプリ (住民端末)	一般ユーザ (住民)	閲覧機能	アプリ上に公開されている施設情報等の閲覧を行う。 アプリ上に公開されている課題・アイデアの閲覧を行う。 アプリ上に公開されているアイデアの支援の進捗状況(目標達成までのポイントの達成率、支援締め切りまでの残り日数)の閲覧を行う。
		投稿機能	アプリ上に公開されている地域の施設等に対して、コメントと画像・音声・動画ファイル等のファイル投稿による課題の投稿を行う。 アプリ上に公開されている地域の施設等に対して、コメントと画像・音声・動画ファイル等のファイル投稿によるアイデアの投稿を行う。
		評価機能	住民が投稿し自治体の審査に通過したアプリ上に公開されているアイデアに対して、あらかじめ設定された評価項目による評価と自由入力によるコメントによる評価を行う。
Webシステム (自治体端末)	管理ユーザ (自治体担当者)	支援機能	住民が投稿し自治体の審査に通過したアプリ上に公開されているアイデアに対して、自分の保持しているポイントを投資して支援を行う。
		管理機能	ユーザ情報とアプリ上に公開する地域の施設情報等を管理する。(登録・更新・削除等)
		審査機能	住民から投稿された課題・アイデアを管理する。(ステータス管理等)
			住民から投稿されたアイデアを整理し、妥当性確認等の審査を行う。

キーワード 情報通信技術, オープンガバメント, 住民参加, 意見集約, 合意形成

連絡先 〒330-6011 さいたま市中央区新都心 11-2 TEL 048-615-2225

4. フローと実施形態

凡例：— 一般ユーザ, — 管理ユーザ

本システムにおける投稿アイデアのフローと通信の流れを図-2に示す。STEPは、利用場面を表し、○○アイデアは、アイデアの状態を表す。達成アイデアは、住民意見として当該事業に反映される。達成アイデアに至らなかったアイデアは、データベースに蓄積され、整理した内容を一定時期毎に公開する。STEP毎の実施形態の例を図-3に示す。施設情報はカテゴリ毎に色分けされピンマークで表示され、公開アイデアは、旗マークで表示される。

5. ポイントの仕組み

ユーザ登録された各住民端末に対し、予め規定された所定数の配布ポイントを一律に付与する。投稿された特定の事業に関する課題および妥当性の審査結果が有効であるとして、審査を通過した特定の事業に関するアイデアは、各住民端末を介して複数の住民に公開する。審査を通過したアイデアを実現させるために必要な達成ポイント数をアイデア毎に受け付けて、各住民端末からアイデアに対する支援の度合いに応じて投票される任意数のポイントを集計し、この総数が達成ポイント数に達したか否かによって、公開されたアイデアに対する住民の関心度を判断する。

6. まとめ

本システムにより、自治体は予め決定された達成ポイント数と達成日数に対する地域住民のポイントの投票による達成率に基づいて、各種のアイデアに対する実施可否や地域住民の関心度の高さを容易に判断できる。したがって、地域住民により投稿されたアイデアを地域住民と自治体とで共有できるのみでなく、アイデアに対する地域住民の声を容易に反映することが可能となる。

参考文献

1)瀬戸ら：My City Reportを用いた市民協働と次世代に向けたスマートな道路管理，地理情報システム学会講演論文集，pp.27-30，2018，2)川勝ら：情報管理システムおよび情報管理プログラム，日本国特許庁，特許第6821631号，2021.1.27

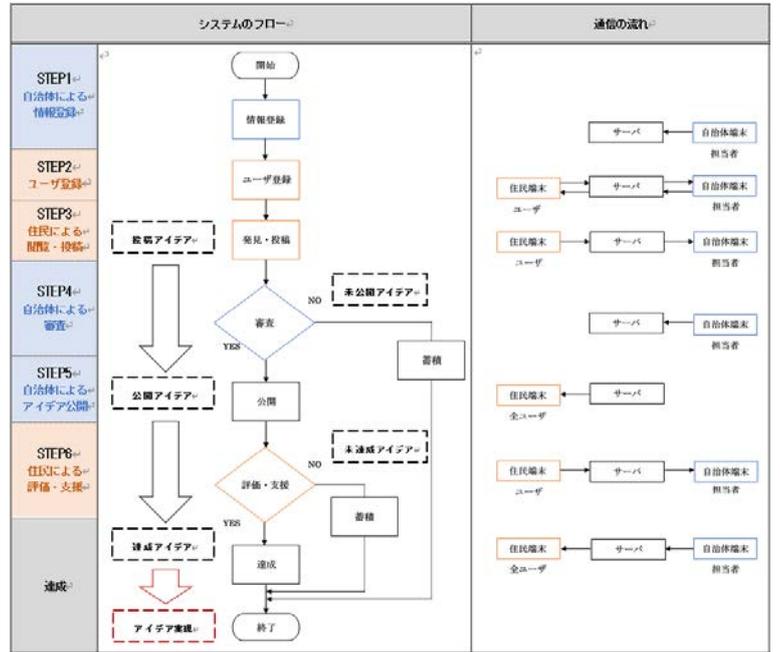


図-2 システムフローと通信の流れ

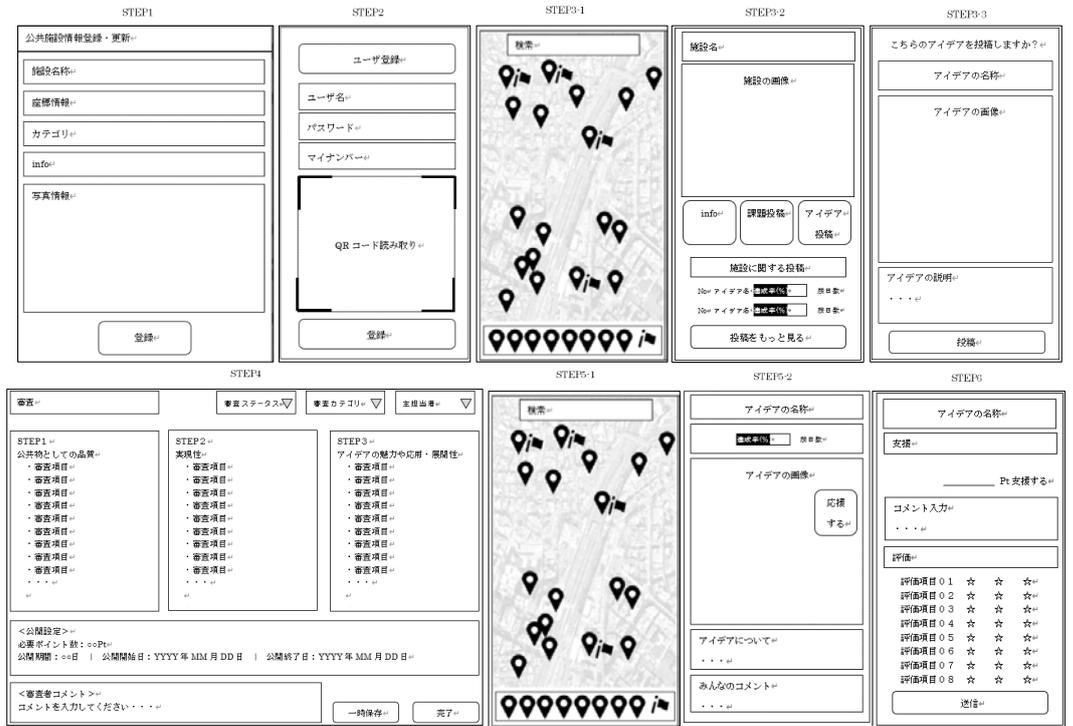


図-3 実施形態